

公立大学法人公立小松大学 学長業績評価 評価書

1. 評価

評定	評価
A	優れた業績である

2. 総評

- 初の卒業生輩出にこぎ着いたことを評価する。また、開学当初からの目標であった大学院の令和4年度度開設も果たし、教育研究全般に亘り、中期計画に盛り込まれた目標を着実に達成していることを高く評価できる。大学院設置をはじめとする学長の熱意と心遣いは、教職員に浸透してきており、創業期の礎が築かれた。今後、大学院博士後期課程設置に向けて、最大限の努力がなされることを期待する。
- 定常状態の運営に向けて、効率・効果を最大化するよう、教職員のベクトルを同じ方向に向けることが大学のプレゼンスを上げるために重要と思料する。
- 新型コロナウイルス感染拡大の状況下でのオンライン講義の導入、対面授業の再開、さらには実験・実習の取組み等、常に先取りした対応力を評価する。人口減少が続く中であって、規模は小さくとも未来に希望を与える、光り輝く、そして周囲に刺激を与え続ける大学として成長することを期待する。
- 公立小松大学の学生は非常に幸せだと思う。学長が自ら入学前のアドミッションポリシーを語り、入学後は大学の理念を熱っぽく話し、学生にとって必要なものをできるかぎり揃えてくれる。学長の、学生を愛する心と学問に対する深い探求心がこの大学をさらに発展させるものと確信している。コロナ禍の試練も3年目になるが、ウィズコロナ、アフターコロナの対策が既に十分に準備されていると推測する。

(1) 教育 A⁺

- 入学者選抜に関して、アドミッションポリシーに基づいた学生募集の成果が表れ、高い志願者数増加を達成しており、入試の結果は高く評価できる。
ただし、入学定員に対する合格者数は決して少なくない現状に鑑みるに、入学を辞退した学生の進学先などの特定と対策が必要である。
- コロナウイルス感染禍に対しては早くから予防対策を行い、オンライン授業などを実施してきた結果、感染者を最小限にとどめていることは評価できる。
- 共通教育(一般科目、外国語科目、歴史教育)を重視すると共に、専門教育では実践的な

課題解決型学修を積極的に行っており、全体としてバランスの取れた教育が実践されていることが評価できる。

- キャリア教育の実施を背景にした令和3年度の高い就職内定率を評価する。
- 学長としてのリーダーシップを大いに発揮され、大学院「サステイナブルシステム科学研究科」修士課程の設置認可の成功されたことは、特筆に値する。
- 今後、未来を見据えた大学院研究科博士課程設置及び学生確保への対応を期待する。

(2) 研究 B⁺

- 本学の研究力を向上させるため、独自の研究助成である重点研究「みらい」を「つよみ」へとグレードアップされたことは、中期計画を上回る優れた業績と認められる。
- 科研費獲得実績は目標を超えてはいるが、科研費採択になお改善の余地があり、今後さらなる増加、研究支援に格段の努力を期待する。
- 共同研究は地域に根差し、産学官連携を推進する取組みとして評価できる。今後は研究成果の創出が求められる。外部資金の獲得と基礎研究の実施が着実に行われることを期待する。
- 学会報告件数は、コロナ禍の影響が出たのか目標を下回っているが、外国語論文数が多いことも評価できる。
- 研究成果の発信力を高めるために、ホームページ等英文化を進めている点は時代の先取りとして評価できる。

(3) 国際交流 A⁻

- コロナ禍での米国や東南アジアの大学とのオンライン交流や新たな協定締結など、今後の国際交流の発展に貢献するものと評価できる。
- オンラインでももっとできる交流があるので、積極的なアクションを期待する。
- 国際文化交流学部以外の学生も興味を持つようなプログラムも企画し、今後の国際交流を加速してほしい。
- 「国際都市こまつ」に向けた地域内での国際活動に感謝したい。また、今後の世界との懸け橋としての役割を担ってもらいたい。
- 留学生の受入体制については、改善すべき課題を残した。

(4) 地域連携 A⁻

- SDGs、カーボンニュートラルについての具体的な取組みを期待する。
- 小松市の観光大使「こまつ姫御前」に学生が2名選出されていることも地域貢献の1つである。引き続き、若者の力が街に活力を与える「まちなかキャンパス」づくりの推進を期待する。
- 「AI研究会」の発足や、北陸産業活性化センター「新事業」の採択など、地域企業と連携し

た研究を積極的に取り組み、成果が出ていることを評価する。

- 市民公開講座は、「こまつ市民大学」として市民に認定されてきており、テーマ数も増え、教員の努力を認める。
- 新型コロナウイルスの影響によるイベント等の中止により、市民との交流の機会は減少したが、ワクチン集団接種事業に対しボランティア活動を行ったことは意義のあることと評価できる。
- 大学院生、卒研究生が出てくるので、企業との共同研究の件数増加を期待する。
- コロナ禍においても多くの可能性を探りつつ、地域貢献活動を推進し、地域社会との連携と企業との信頼関係の構築には大きな成果があったことが評価できる。

(5) 業務運営 A

- 全方位にガバナンスを効かせて大学運営に専念されていることを高く評価する。
- 「公立小松大学憲章」に基づき、学長を中心に学生・教職員が掲げる目標に向けて取り組んでいることを評価する。時代の変化が激しい中、教職員の採用や業務の効率化・合理化等、常に変化に対応する努力を期待する。
- 大学院修士課程が認可されたことは大学がさらに発展する原動力となるものと期待する。
- 大学の運営面では、人件費率が約61%と非常に高く、固定費の削減には、学生や教職員の無駄に対する厳しい認識が必要と思われる。
- 学長として役割と責任を明確にされ、将来のビジョンを描きながら業務運営がされていることを評価する。